

(2) 湯の花温泉景観形成地区における景観形成の方針

現状と課題

亀岡の三大観光拠点のひとつであり多くの観光客を誘客する湯の花温泉は、大都市近郊にありながら、「京の奥座敷」と表現されるように、山間部に温泉旅館が点在していることから、原風景にとけ込む温泉郷としての景観が形成されています。

今後は、観光客にとってやすらぎのひとつが過ごせるよう、道路などの公共施設も含めた一体的な景観形成を進めていく必要があります。



湯の花温泉

景観形成の方針

温泉郷の情緒を醸し出す、自然や緑と共生した景観の形成を図ります。

〔施策の方向性〕

- 湯の花温泉地域総合整備計画で示された「自然環境、歴史的文化資源を活かした花と緑に囲まれた自然と文化と温泉の香りあふれる温泉郷」のコンセプトに沿った魅力的な景観の形成を目指します。
- 観光地らしい活気と若者や家族連れなど幅広い世代に親しまれる景観誘導を図ります。

〔具体的方策〕

- 観光地にふさわしい街路整備や、親水性に配慮した水辺空間の整備を図ります。
- 落ち着いた温泉情緒あるたたずまいを形成するため、意匠や色彩についての規制誘導を行います。

○ 湯の花温泉景観形成地区

